

地震が起きたら・・・

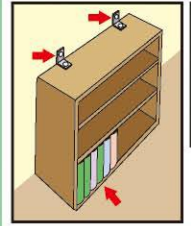
地震が起きたとき、被害を最小限に抑えるためには、一人ひとりがあわてず適切に行動することが大切です。いざというときに落ち着いて行動できるよう、日頃から地震のときの正しい心構えを身につけておきましょう。

1 揺れたら、まず**丈夫な机やテーブル**などの下に身を隠し、座ぶとん等で**頭部を保護**しましょう。

4 火が出たら大声で隣近所に声をかけ、みんなで協力しあって**初期消火**に努めましょう。

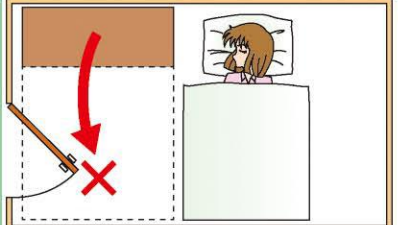
7 自動車は消火・救助活動の障害になるため、必ず**徒歩で避難**します。持ち物も最小限にとどめ、動きやすい服装で避難しましょう。

目ごろからの安全対策

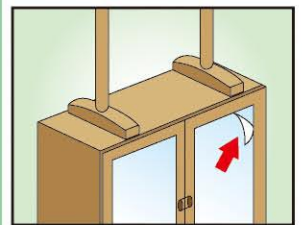


● 収納は重いものを下、軽いものを上にしましょう。また、隙間を作らないようにしましょう。

● 大型の家電製品や家具は転倒防止器具で固定しましょう。



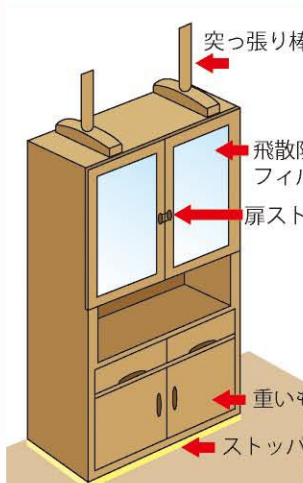
● 寝室や避難経路になる場所に大きな家電製品や家具を置かないようにしましょう。



● ガラスには飛散防止のフィルムを貼りましょう。



● 寝室などの取り出しやすいところに運動靴などを用意して、割れたガラスなどから足を保護しましょう。



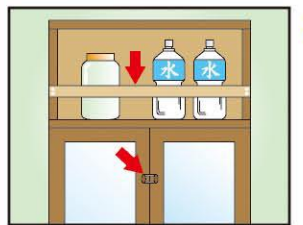
● 転倒防止器具には、天井などに固定するタイプもあります。

● 扉や引出しに開放防止ストッパーをつけましょう。

● 家具の前面下部に取り付けるストッパーや、家具の底部と床を粘着させるゲル状のものを設置する。

● 重いものは下に収納

● ストッパー式器具・マット式器具



● 収納物の落下を防止するため、棚板にふきんを敷いたり、飛び出し防止枠をつけると安心です。

● **家屋の耐震化** 既存の家屋の壁や基礎、接合部等を補強することも可能です。特に昭和56年以前に建築された家屋は、耐震診断を実施しましょう。

● **ブロック塀の点検** 高さ、厚さは問題ないか、控え壁や基礎はあるか、傾きやひび割れがないか、鉄筋が入っているか点検しましょう。

①昔の地形図や写真などを使って市内の地盤を調査します。②地盤ごとに推定した揺れやすさの程度を掛け合わせて地表の震度を予測します（地震防災マップ作成技術資料（内閣府，平成 17 年））。③地形分類をもとに液状化の発生可能性を評価します（液状化地域ゾーニングマニュアル（国土庁，平成 11 年））。④町丁字別の建物の構造や建築年代別の建物棟数と想定される震度から建物の全壊率（こわれやすさ）を予測します。

